

第11回 神戸女学院大学 絵本翻訳コンクール

審査員からのコメント

募集も審査もペーパーレス。これまでとは異なることづくし。それなのに予想を超える数の作品との嬉しい出会いが今年度も叶いました。たくさんのご応募、ありがとうございました。

本当はみなさんに賞を差し上げたいけれど、それではコンクールは台無し。選ぶという宿命からは逃げられない。それが審査員です。

どんな視点から？ どんな基準で？ 気になりますよね？ そこで、みなさんの作品に私たち審査員がどう向かい合ってきたのかご説明します。

I. 訳文の良し悪し

訳文の良し悪しは、表現の巧拙と同じではありません。表現が上手くてもダメな訳もあれば、下手であっても悪くはない訳もあるので。なぜでしょうか？ それは、果たすべき役割によって訳文の良し悪しが変わってくるものだからです。

II. 訳文の役割

海外の絵本を日本語に翻訳する目的とは、作品を日本の読者の胸に届けること。そのままでは伝わらない物語を伝えるように言い換えてお届けすることです。

ということは、訳文が果たすべき役割は作品を伝えること。ただそれだけのことですが、簡単ではありません。なぜなら、作品を別物にしてはならない & 読者に伝わる表現にしなければならない、という縛りがあるからです。

III. 審査のポイント

上で説明した役割を果たす訳文か、という視点から審査をしました。具体的なポイントは、次の通りです。

- 1) 作品を別物にしていないか
 - a. 原作の内容や意図を正確に理解できているか
 - b. 原作の内容や意図が正確に伝わる訳文か
 - c. 原文と訳文の読書体験がかけ離れていないか
- 2) 読者に伝わる表現になっているか
 - d. 未就学児対象の絵本らしい言葉遣いか
 - e. 正しい日本語で自然に表現できているか
 - f. 未就学児対象の絵本にふさわしい表記か
- 3) 訳文のリズムやテンポ（音や流れ）& 表現上の工夫

IV. 講評

応募して下さったみなさんにありがとうの気持ちを込めて、動画をつくりました。

課題絵本や審査基準について簡単に説明したのち、訳例をあげて講評しています。

概要欄のなかに目次があります（動画の下にある[もっと見る]をクリック！）。見たい箇所をクリックしていただくと、そこだけご視聴いただけます。ぜひご覧ください→

